

ねぎうちれきしこうえん
根木内歴史公園

所在地・・・千葉県松戸市根木内字城ノ内41番地

面積・・・25,026㎡

実施主体・・・松戸市都市緑花担当部 公園緑地課

問合せ先・・・【住所】千葉県松戸市根本387-5
【TEL】047-366-7380

根木内歴史公園

整備の概要

整備実施期間・・・平成13年～平成17年度(2001年～2005年度)

①「自然遷移の実施」に向けた整備手法

Step1: 生物調査の実施による貴重種の確認

根木内城址生物調査により、公園整備前の斜面樹林地、平坦地、低湿地に生息している植物を把握し、貴重種として、「タコノアシ」「サイカチ」「マンジョウ」「ミゾホオツキ」「タカアザミ」「ミクリ」「キンラン」「シュンラン」「カワジシャ」を確認した。



タコノアシ



サイカチ



マンジョウ



ミゾホオツキ



タカアザミ



シュンラン

Step2: 専門家の意見を聴取し植栽計画・管理計画の決定

公園開園の前に、専門家の意見を聴取する委員会を開き、現況の植生の保全を主として、補植については現況の植生種あるいは郷土種を主として植栽する計画に決定した。また、管理計画に「市民が参加できる仕組み」を取り入れる提案があった。

Step3: 市民団体と市による定期管理

市民団体は開園と同時にボランティア活動を始め、毎月1回の市職員と市民団体によるミーティングで決まった管理計画に従い維持管理作業を定例活動として行い、その中では生物保全の観点から低湿地のヨシのエリアを複数に分け、年毎に刈り取るエリアを変えて作業を行っている。また、市は低湿地の水の確保のために井戸を掘ったり、重機で広場を整備したり、日光を取り入れるため樹林地の間伐等を行っている。

Step4: 観察会の実施による定期的な植生の把握

毎月1回湿地の観察会を行い、低湿地の植生把握に努めている。定例活動によるヨシ刈りや樹木の剪定により、低湿地の植生にどのような変化をもたらしたのかを把握することで、翌年度の管理計画の改善に役立て、また、湿地の植生の豊かさを周知したり、安定した植物群落への遷移の可能性を探る一助としている。

② 整備時の協働者との関わり ⇒根木内歴史公園整備検討委員会(学識者、地元町会長等)

根木内歴史公園整備検討委員会の会長が、根木内歴史公園整備基本計画の提言書を市長に提出し、この提言をもとに、市が根木内歴史公園整備基本計画を策定した。

③ 整備時の留意点

- * 現状する遺構を保全し、現況の自然地形を最大限に生かし、施設の導入は必要最小限とした。
- * また、市民が遺構を身近に観察し、城の形態や歴史などについて理解できるように整備した。
- * 樹林は適切に保全し、バランスのとれた樹林環境を維持することに努めた。

事業効果

- カエルの種類が増えたり、猛禽類の鳥やヘビの目撃情報が寄せられた。
- タコノアシやミクリといった貴重な湿地植物についても広がりを見せた。
- 市民と行政の協働事業が高く評価され、千葉県の研修会でも協働事業のモデル事例として扱われて発表しており、県内の他の協働事業に対しても影響を与えた。



ミクリ

対象地の概要・・・根木内歴史公園は、上富士川の氾濫原と、それに向かって北西方向に突き出た舌状台地を含む地形にあり、斜面樹林地、台地上の平坦地、低湿地の3つの空間構成により成立している。標高20～21mの台地部分と標高8～9mの低地部分の最大差は約12mにもなり、園内は、主に台地から斜面に向けて広がるシラカシ、シロダモ、イヌシデ等の針広混交林、また一部に竹林が見られる。低湿地部は主にヨシの群落やガマがあり、中にはタコノアシやミクリなどの貴重な植物も生育している。

事業への取組みのきっかけ

松戸市内には、14ヶ所の城址が存在していたが、都市化によりその大半が破壊・消滅したため、残された根木内城址は重要な歴史的遺産であった。また、根木内城址は、豊かな樹林地を有し、市街化の進む市内にあって、優れた自然環境を温存した貴重な緑地でもある。このような状況を踏まえ、貴重な歴史的遺産の保全・活用と市街地に残された優れた緑地の保全を目的とし、都市公園(根木内歴史公園)として整備した。

維持管理の概要

④「自然遷移の実施」に向けた維持管理内容

市民団体は週1回、低湿地のヨシ刈りや施設の軽微な修繕や樹木の剪定、園内清掃を行っている。業者は大規模な剪定、草刈等を行っており、平坦地の草刈の際は、虫のために一部を刈り残している。

⑤ 維持管理時の協働者との関わり ⇒市民(根木内歴史公園サポーター)

月1回のミーティングに市の職員が出席し、市民団体(根木内歴史公園サポーター)と直前1ヶ月の市民活動及び市の作業の報告と今後1ヶ月の市民活動内容と市の作業内容の確認をしている。活動には千葉大学園芸学部の協力も頂き、専門的立場からのアドバイスを受けている。

また、市民団体と協働として、公園内での虫の観察会、工作づくり、音楽会等のイベントの開催をしている。

⑥ 維持管理時の留意点

* 市民と協働で管理する公園として開園した直後は、公園管理に対する市民ボランティア一人一人の思い入れが強く、意見をまとめあげることが困難だったため、市民同士、市職員と市民がお互いを理解し尊重しあえる環境づくりが必要であり、そのためには、月1回のミーティングと定例活動を中断することなく継続して行うことが必要である。



ヨシ刈りの様子



虫捕り観察の様子



観察会の様子

備考

現在の課題

草刈をしない場所を設けるなど、様々な環境をつくる工夫をしている。ただし、そのような場所を設けることにより公園利用者に不便をかけることもあり、利用者の利便性と自然の保全のバランスが課題である。また、歴史の遺構を守るための伐採費や法面保護の費用が不足しているのも課題である。

今後の展望

利用者の利便性と生物多様性の保全のバランスは、今後も続く課題であり、状況に応じて判断せざるを得ないと考えており、今後も市の維持管理費の増加が見込めない中、これまで以上に市民団体の活動で担う部分が増えてくると考えている。